

塙町の古文書

常世中野区有文書

この文書は、現在東白川郡塙町大字常世中野にあって、常世中野区長によって引き継がれている。もとは常世中野村名主文書・常世中野戸長役場文書として引き継がれていたものである。総点数四七七点（近世三九六点、明治期八一点）からなっている。

常世中野村は、元禄郷帳や天保郷帳では常世中村ともいわれた。はじめ常陸佐竹領、慶長七年幕領（彦坂小刑部）元和八年棚倉藩領、享保十四年幕領（竹貫代官所・塙代官所）天明四年棚倉藩の支配下におかれた。

「正保五年三月村内御改二付書上帳」（『塙町史』²）によれば、村高五四五石一斗三升二合余、人数一三〇人、家数二九軒、馬数一七疋と記されている。

この区有文書は、土地関係では「正保四年八月奥州棚倉領白川郡常世中ノ村田畑水帳」をはじめ「慶応元年九月常世水損地小前書上帳」など三三三点、年貢関係では「寛文十二年十月子之歳常世中ノ村土免状之事」など年貢割付状は「慶応三年十一月卯

御年貢免状之事」まで一六五通、年貢皆済目録五四通、御年貢親金勘定目録三二二通、浮役銭之事三一通、御年貢御用捨引四八通などよくまとまっている。

村方庄屋役引渡帳面目録（八通）、村絵図、村差出帳は、常世中野村庄屋を代々つとめた荒川家に残るものと、区有文書にある天保七年三月、慶応元年、慶応三年九月、慶応四年八月の村差出帳とがある。これによって常世中野村の概況、村民生活の実態を知ることができる。また村方出入、借用証文、質地証文などもふくまれるが、この常世中野区有文書の中心は、土地・年貢関係といえよう。

松本喜輝家文書

この文書は、現在東白川郡塙町大字中塚、松本喜輝家に伝存する中塚村名主文書の一部である。総点数は三八〇点、うち近世文書二八七点、近代文書九三点である。

中塚村は、慶長七年幕領（彦坂小刑部）享保十四年幕領（竹貫代官所・塙代官所）の支配下におかれた。

村高は二五二石二斗五升三合で「天保郷帳」では二五五石余、また寛延二年・寛延三年の年貢割付状では、中塚村上組（高七九石七斗七升八合五勺）中塚村下組（高一七五石三斗九升四合五勺）とある。下つて明治元年、「旧高旧領取調帳」によれば、上中塚村（高二四石六斗七升六合六勺五才）、下中塚村（高四〇石四斗九升六合三勺五才）とあって、上中塚村は棚倉藩領分で、下中塚村は幕領塙代官所の支配下にあった。

中塚村二五五石余が村分けされるのは、棚倉藩主小笠原堯の天明四年十一月塙代官領のうち一七カ村五八〇〇石余が領地引替となった。

このときの一七カ村は、瀬ヶ野村、小爪村、強梨村、戸中村、漆草村、大梅村、福岡村、上手沢村、下手沢村、北山本村、中山本村、下山本村、上洪井村、中野村、川上村、川下村、それに中塚村のうち二一四石六斗七升余が、塙代官野村権九郎から引渡をうけた。このとき中塚村の枝郷館岡村分四〇石四斗九升余が、幕領中塚村として残り、一村一人百姓で、松本家の先祖である名主喜兵衛（喜平）が中塚村（下中塚村）を支配した。

主として中塚村の年貢関係文書である。